

水質管理

安全でおいしい
水ってどんな水？

徹底した水質の検査・監視
により、安全で良質な水道水
をお届けしています。



きめ細やかな管理によって 水質基準を満たした水をお届けしています

毎日の暮らしに欠かすことのできない水道水が、安全で信頼できる水でありつづけるため、水道水には、守らなくてはならない基準(水質基準)があります。

札幌市の水道水は、52項目におよぶ水質基準を常に満たしています。これは、水道水の元となる河川の水質を巡回パトロールや水質自動監視装置で監視し、浄水場で河川水を適切に処理するとともに、浄水場や配水池、水道管をいつも良好な状態に保っているからなのです。

【残留塩素】は安全のあかし

水を塩素で消毒すると、水の中に微量の塩素が残りますが、これを残留塩素といいます。水道水がご家庭に届くまで、この残留塩素によって消毒効果が持続するため、安心して飲むことができます。

「水道法」では、水道水は蛇口から出る時点で0.1mg/L以上の残留塩素を保持することが定められています。

水道局では市内各所で24時間連続してこの残留塩素を測定し、この結果を元に浄水場での塩素の注入量を変えるなど、きめ細やかな管理により信頼性の高い水をお届けしています。

札幌の水道水がおいしい理由

札幌の水道水の水源はほとんどが国立公園などの森林に囲まれており、雨や雪解け水が水源の元となっています。この雨や雪解け水が森林の地中を通る時に、おいしさにつながるミネラルを適度なバランスで含むようになります。また、水道水の元となる河川の水質が良好なことや水温が低いことが水道水のおいしさにつながっています。

水道局ではこのような「安全でおいしい水」をいつでも皆さまにお届けするよう細心の注意を払っています。

水質検査計画と水質検査結果を公表

水道局では、水道水の水質検査計画(検査項目、検査地点、検査頻度等)を毎年度作成し、ホームページなどで公表しています。

計画を作成する際は、法令改正や過去の検査結果、皆さまからのご意見をもとに、必要に応じて見直しを行いますので、ご意見をお寄せください。

また、水質基準項目や水質管理目標設定項目等の水質検査結果についても、ホームページなどで見ることができます。

札幌市 水道水質 検索

水質基準項目(52項目)

●人の健康に影響を及ぼすおそれのある項目及び生活利用上障害が生ずるおそれのある項目として、52項目の水質基準値が定められています。

【例】大腸菌、カドミウム、水銀、鉛、ヒ素、トリハロメタン類、塩素酸、マンガン、硬度、有機物、濁度など

水質管理目標設定項目(26項目)

●将来にわたる水道水の安全性の確保等として、26項目の水質目標値が定められています。

【例】ウラン、ニッケル、農薬類、残留塩素、遊離炭酸、亜塩素酸など



“おいしさ”にかかわる水質目標値との比較

項目	水質の目標値	札幌市の水道水(白川浄水場)
残留塩素	1mg/L以下	0.47mg/L
遊離炭酸	20mg/L以下	2.2mg/L
有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	2mg/L以下	0.6mg/L
カルシウム・マグネシウム等 (硬度)	10~100mg/L	35mg/L
蒸発残留物	30~200mg/L	90mg/L

※令和6(2024)年度平均値

送配水施設

安全な水を
安定して送ります

浄水場でつくられた安全な水を適正な水量・水圧で各家庭に送り届ける役割を担っているのが、送水管・配水池・ポンプ場・配水管などの送配水施設です。

浄水場から送水管により運ばれた水道水は配水池に蓄えられ、そこから自然流下やポンプ揚水により配水管へと送りこまれます。

送配水施設



配水センター 【豊平区西岡2条2丁目6-3】

配水センターは、コンピューターを駆使した「配水情報管理システム」によって、刻々と変化する流量や水圧、配水池の水位などの情報を収集・解析し、配水施設が効率よく運営されているか、また、異常が起きていないかなどを24時間体制で監視しています。まさに、送・配水管理の中枢といえます。



配水池

配水池は、日中と深夜など時間によって増減する水の使用量と浄水場から送られる水量との差を調整すると同時に、適正な水圧を保って安定した給水を行う機能を持った水道水の貯蔵施設です。

札幌市内には藻岩・平岸・清田・西部などの大規模な配水池があり、これらに蓄えられた水道水は配水管により各給水区域へと送られます。

配水池上面は公園等として有効活用しています。平岸配水池の上面はテニスコート(20面)を整備し、平成30(2018)年から一般開放しています。このテニスコートの中央には水飲み場「ソラノイド」を整備しており、夏でも冷たくおいしい水道水が飲めるようになっています。

ポンプ場・ 高区配水池

丘陵地などの高台地区には、ポンプで高区配水池に水を押し上げ、各ご家庭へ水を届けています。



古くなった送水管を更新しています！

白川浄水場でつくった水道水を平岸・清田・西部などの大規模な配水池へ運ぶ送水管は、札幌の水道にとって大動脈といえる施設です。

この送水管のうち、白川第1送水管は昭和40年代に布設され、経年劣化が進み耐震性能も不足しています。

今後も安定的な送水を継続していくため、水道局では、白川第1送水管を更新し、それに合わせて耐震化を進めています。

